

山県市

GHPと災対バルク導入

市立総合・全中学校 4体育館に

山県市（林宏優市長）は市の総合体育館と市立の全3中学校の体育館にLPガス仕様の電源自立型GHPを導入するとともに、災害対応バルクを新設した。2月末に設置工事が完了。多発する自然災害を受け、分散型で備蓄性に優れるLPガスの実力が評価された。

LPガスの分散型、備蓄性評価

今回、GHPを新設し、学校、美山中学校の体育館。たのは山県市総合体育館。と高富中学校、伊自良中

総合体育館にはGHPは各4台（それぞれ合計馬力）、3中学校体育館は各4台（それぞれ合計80馬力）を設置した。すべてヤンマーエネルギー

システム製。山県市は市立小中学校普通教室の空調にLPガス仕様GHPを採用しており、エネルギーの分散化や災害時対応の重要性を踏まえ、LPガスの特性を評価していた。体育館の空調について

もLPガス仕様GHPの採用に積極的な姿勢を示し、今回の導入に至った。今後は、市立小中学校の全体体育館への設置も検討している。

公立小中学校普通教室全室空調化は2019年度までにほぼ完了し、ポスト学校特需の一つとして全国の公立小中学校の特別支援教室と避難所となる体育館がターゲットになっている。

全国LPガス協会でも、都道府県協会と協力して需要開発推進運動を展開するなど、LPガスの常設・常用提案を推進している。

⑤高富中学校に導入したGHP
山県市総合体育館に新設した災害対応バルク

